

## 2021年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2022年4月28日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 文学部・教授

(氏名) 五月女 晴恵

2021年度に交付を受けた公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

|       |   |             |        |    |                     |       |
|-------|---|-------------|--------|----|---------------------|-------|
| 研究課題名 | 金戒光明寺所蔵「俵藤太絵巻」の原本の制作年代に関する研究<br>—高階隆兼の様式と海田采女が用いた様式の併存する絵巻— |             |        |    |                     |       |
|       | 合計  | 使用内訳 (単位:円) |        |    |                     |       |
| 交付決定額 | 576,700   | 備品費         | 消耗品費   | 報酬 | その他                 | 旅費交通費 |
| 執行額   | 568,324   | 538,129     | 30,195 | 0  | 0                   | 0     |
| 執行残額  | 8,376   |             |        |    |                     |       |
| 共同研究者 | 所属・職名   |             | 氏名     |    | 役割分担等               |       |
|       | 筑紫女学園大学・<br>准教授   |             | 小林 知美  |    | 絵巻・掛幅の調査<br>(撮影)の補助 |       |
|       |   |             |        |    |                     |       |
|       |   |             |        |    |                     |       |

研究分野：美術史学

キーワード：中世絵巻、宮廷絵師

### 研究成果の概要（和文）

今年度は、コロナ禍のため、当初予定していた県外の機関が所蔵する作品調査の許可がおりなかった。そこで、予定を変更し、福岡県立美術館所蔵の尾形守房筆「藤原秀郷龍宮城図」を、共同研究者の筑紫女学園大学准教授・小林知美先生と実施した。加えて、三年前に、京都・金戒光明寺所蔵「俵藤太絵巻」を調査した際、同内箱に、未紹介の古文書が納められていることを見出していた。そこで、その古文書の翻刻と内容紹介、さらには、成立・来歴を考察して論文にまとめ、査読のある東北大学美術史学講座『美術史学』に投稿して掲載された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

福岡県立美術館所蔵の尾形守房筆「藤原秀郷龍宮城図」は、現在は失われた 14 世紀の宮廷絵師による絵巻の模本である可能性が近年指摘されている。墨線で図様を写しとったのみの画稿体裁の模本ではあるが、原本の図様が極めて忠実に写しとられており、同「藤原秀郷龍宮城図」の考察は、逸名の宮廷絵師の作風を復元することへと繋がるものである。

また、金戒光明寺所蔵「俵藤太絵巻」の箱内文書は未紹介の新出文書であり、同文書の翻刻を載せた拙稿では、同じく未紹介のほぼ同内容の文書も、その関連史料とともに翻刻し考察している。したがって、本研究成果は、日本中世絵巻研究に新知見をもたらすものと言える。

## 1. 研究の背景

金戒光明寺所蔵「俵藤太絵巻」は長く、室町時代 16 世紀頃の制作で、「俵藤太物語」を描く現存最古本とされてきた。そのような中、近年、共同研究者の小林知美先生は、尾形守房筆「藤原秀郷龍宮城図」と金戒光明寺所蔵「俵藤太絵巻」とは原本を同じくする姉妹関係にあることを指摘し、それを受けて、申請者は、両絵巻の原本は 14 世紀に宮廷絵師によって描かれたものである可能性を述べ、そして、金戒光明寺所蔵「俵藤太絵巻」の制作は従来唱えられている説よりも下る可能性を指摘した。

このように、本研究で取り組むテーマは、現在、新知見が相次ぐものである。

## 2. 研究の目的

尾形守房筆「藤原秀郷龍宮城図」と金戒光明寺所蔵「俵藤太絵巻」との共通の原本の画風・様式・制作年代を考察し、さらには、「俵藤太絵巻」箱内文書の翻刻と考察、さらには、箱内文書の成立時期を明らかにした上で、同文書と「俵藤太絵巻」との関係を考える。

## 3. 研究の方法

今年度はコロナ禍のため、当初調査を予定していた作品の調査許可が得られなかった。そこで、尾形守房筆「藤原秀郷龍宮城図」の調査を共同研究者とともに実施すると同時に、大型本に掲載される図版やデジタル画像などを用いながら、共同研究者とともに考察を重ねた。さらには、「俵藤太絵巻」箱内文書の翻刻および成立・来歴の考察に取り組んだ。

## 4. 研究成果

尾形守房筆「藤原秀郷龍宮城図」と金戒光明寺所蔵「俵藤太絵巻」との共通の原本は、14 世紀に活躍した宮廷絵師・高階隆兼が手掛けた絵巻よりも、さらに遡る画風・様式を具えている可能性を見出した。さらには、「俵藤太絵巻」箱内文書の翻刻および成立・来歴に関する考察結果を論文としてまとめ、査読のある学術雑誌に投稿し採択された。